

全小社研

・発行所
・全国小学校社会科学研究協議会
・東京都新宿区四谷2-6
・発行人 石井正広
・編集人 西谷秀幸

島根大会・和歌山大会への期待

全国小学校社会科学研究協議会会長
東京都新宿区立四谷小学校校長

石井正広



学習指導要領が告示されて六年が経過し、改訂された新しい教科書が採択され、学校の子供たちに届けられて使われ始めました。

学校現場では、令和三年の中国教育審議会『令和の日本型教育』の構想を目指して」で示された個別最適な学びと協働的な学びの一体化やGIGAスクール構想を踏まえた授業改善への試行が広まりを見せています。

また、令和五年に新型コロナウイルス感染症が五類に移行して感染症対策への対応が一つの節目を迎え、学校の教育活動も従

前のような活気が戻ってきています。

昨年度は、全国小学校社会科学研究協議会研究大会を東京で開催したところ、二日間で千六百名を超える参加者が集まり、授業について熱い議論が繰り広げられました。熊本大会に続き、対面での授業公開や研究協議を待ち望まれていた方がたくさんいることを肌で感じることでできました。

さて、今年度は十月三十一日(木)・十一月一日(金)に第62回全国小学校社会科学研究協議会研究大会島根大会が「地域に学び、未来を共に拓く生き方を問い続ける社会科学習」互いに関わりながら、主体的に考え、追究する力の育成を目指して」を大会主題に掲げて開催されます。

明確にして子供の追究意欲を支える教材開発、②単元の全体が見通せるような「知識と問いの構造図」の作成、③思考を掘り下げる視点や追究の良さを自覚できる工夫など、学習が充実するための支援は、社会がわかり、社会にはたらかけることができる子供の育成につながる重要な研究内容です。

さらに、二月六日(木)・七日(金)には、令和六年度全国小学校社会科学研究協議会研究大会和歌山大会が「持続可能な社会の在り方を問い続ける子供の育成」一人一人が追求し、追求し合う社会科学習」を大会主題に掲げて開催されます。一人学習のプロセスと全体学習のプロセスが相互補完的に展開する問題解決的な学習の充実に向けた①地域のひと・もの・ことを生かした単元デザイン、②一人学習の充実、③一人学習を生かした全体学習、④教科横断のカリキュラム・デザイン、などの教師の手だては全国の小学校でも参考になると期待できます。

これまでも、全国小学校社会科学研究協議会は、コロナ禍の間でも研究の灯を止めず知恵を出し合い研究大会を継続してきました。二つの大会を通して発信される研究成果が各地区の社会科教育の発展に寄与することを期待しています。

東京大会の成果をつなぐ

全国小学校社会科学研究協議会副会長
東京都世田谷区立代沢小学校校長

諸角哲男



では、議論を深めることができました。また、午後からの学年別課題研究会では、コロナ禍でも、各地の研究会が、学習指導要領に基づいた授業を充実させてきたことが伝わる提案が数多くあり、良い学びの場となりました。

「社会とつながり未来を創る子供の育成」社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して」を大会主題に取り組んだ都小社研の研究に対しては、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の小倉勝登先生から「今回の都小社研の研究は、学習指導要領の目指す趣旨と合致したものである」という言葉をいただきました。

令和六年度を迎え、都小社研は、新たに石井正広会長のもと、東京大会の成果を都内の学校に広げるとともに、十年後の東京大会に向けての研究をスタートさせました。

今年度開催される「島根大会」「和歌山大会」でも、全国の先生方とともに語り合い、たくさん学びを得られることを楽しみにしています。

新型コロナウイルス感染症の流行は、全小社研の活動にも大きな影響を与えてきました。令和二年度の神奈川大会、福岡大会、令和三年度の大田大会、佐賀大会、令和四年度の北海道大会、熊本大会は、感染症の状況に応じて、開催方法を工夫しながら、「社会科学研究の灯を消さない」という強い思いで、開催を続けていただきました。実行委員長の皆様をはじめ、大会運営に携わっていただいた多くの先生方に深く感謝申し上げます。

昨年度の第61回東京大会は、令和元年度の岐阜大会以来の完全な形で実施となりました。

首都東京に日本全国から多くの先生方にお集まりいただき、四会場、東京都小学校社会科学研究会の学年部会と会場校の教職員が検討を重ねた公開授業を参観いただき、学年別授業研究会

第六十二回全国小学校社会科研究協議会研究大会島根大会

大会主題

『地域に学び、未来を共に拓く
生き方を問い問い続ける社会科学習』『互いに問いながら、主体的に考え、
追究する力の育成を目指して』島根大会実行委員長
島根県出雲市立平田小学校校長

飯塚 積



一 はじめに

八百万の神々が、一年に一度、出雲の国の出雲大社にお集まりになり、様々な縁結びの神議り（かむはかり会議）を行われる神在月の時季に、第六十二回全国小学校社会科研究協議会研究大会を、島根県で開催することとなりました。本県においては、昭和五十四年以来の全国大会となります。学習指導要領改訂から六年を経過して迎える今大会では、今後の社会科の進むべき方向性を見据えながら、これまで島根県社会科が大切に取り組んできた、地域に学び、未来を共に拓く生き方を問い続ける社会科学習を全国に発信したいと考えています。

社会に関わり、そこで見つけ

できる問い等が俯瞰できる図と捉えており、全国大会の場において提案できればと考えています。

社会科学教育の神議りの場において、「知識と問いの構造図」をはじめ、島根県社会科の取組について、ぜひ全国の先生方から忌憚のないご意見を賜りたいと願っています。神在月の出雲の国で、皆様をお迎えできることを心待ちにしております。

二 大会の概要

『地域に学び、未来を共に拓く生き方を問い続ける社会科学習』

『互いに問いながら、主体的に考え、追究する力の育成を目指して』

研究内容

①教材の開発

○育てたい姿の育成にむけ、該当単元で必要な資質・能力の明確化

○子どもが問題を追究するうえで働かせる「社会的事象の見方・考え方」として効果的なものの検討

○子どもの追究意欲を支える、地域にある社会的事象の教材化

②学習過程と問い

○子どもが追究したくなるよう

な社会的事象との出合わせ方の工夫

○「社会的事象の見方・考え方」を働かせることのできる問いの検討

○習得させたい知識とそのために見方・考え方が働くよう促す問いについて、単元全体で見通すことのできる「知識と問いの構造図」の作成

③一時間一時間の学習が充実するための支援

○子どもの思考を予想し、追究の契機となる中心資料とそれを支える補助資料の用意

○子ども一人一人の意識や思考、あるいはその変容の様子が教室内で共有できる方法の工夫

○子どもの意識や思考を認めたり掘り下げたりするための視点の明確化

○子どもの追究を後押しできるとともに、子ども自身がそのよさを自覚できるための方法やその伝え方の工夫

三 日時・会場・内容

第一日

令和六年十月三十一日(木)

十三時～十六時四十五分

出雲市市民会館

島根県出雲市塩冶有原町

二丁目十五番地

開会行事・全体会（大会主題
提案・指導講評他）・記念講演・
閉会行事

第二日

令和六年十一月一日(金)

十時～十六時半

第一会場 出雲市立莊原小学校

第二会場 出雲市立西野小学校

第三会場 出雲市立中部小学校

公開授業・全体会（研究発表・
指導講評他）・学年別授業研究会・
学年別課題研究会

四 講師

第一日 全体会指導講評

文部科学省初等中等教育局

教育課程課教科調査官

小倉 勝登先生

記念講演「神在月の国 出雲

『日本中の八百万神はなぜ

この地に集まられるのか？』

万九千神社宮司

出雲市文化財保護審議会委員

第二日 学校会場指導講評

第一会場 大妻女子大学教授

第二会場 島根大学教授

第三会場 広島大学教授

加藤 寿朗先生

永田 忠道先生

五 参加申し込み

「申し込み専用ホームページ」

から、個人単位で申し込みをお

願いたします。

https://va.apollon.nta.co.jp

https://va.apollon.nta.co.jp

zenshosha_shinane/

zenshosha_shinane/

島根大会

第一日目

十月三十一日(木)

会場 出雲市民会館

午後一時より

○開会行事

○大会主題提案・指導講評

○記念講演

第二日目

十一月一日(金)

市内三会場にて実施

第一会場

出雲市立莊原小学校

校長 廣澤

守

■学校概要・地域の特徴

本校は明治六年(一八七三年)に西念寺に開校し、二宮尊徳の「至誠報徳」を理念とする伝統校で、令和五年度に創立百五十周年を迎えました。また、校地内に、島根県指定史跡神庭岩船山古墳を擁し、校区には国宝の銅剣・銅鐸・銅矛が出土した荒神谷遺跡や高瀬城(山城)があり、悠久の歴史を感じることができ

第二会場

出雲市立西野小学校

校長 小川

恵美

■学校概要・地域の特徴

本校は、三つの学校の統合により誕生した五十四年の歴史をもつ学校です。校区の大部分は斐伊川の沖積作用にて形成された肥沃な平野で、米を中心とした穀倉地帯です。また、近年は大規模な工場の建設や住宅団地の造成が進み、人口も増加して活気にあふれています。

本校在学中に「地球の秘密」という環境保全に関するマンガを描いた直後、短い生涯を閉じた坪田(つばた)愛華(あいか)さんの思いを受け継ぎ、本校では環境教育に力を入れています。

地域のごみゼロをめざす「ゴミ0(リン)ピック」を開いたり、地元企業と「食品ロス削減チャレンジ」の対決をしたりするなど、環境保護活動にも積極的に取り組んでいます。

■研究の概要

本校では研究主題を「地域に学び、自ら問い続け、よりよい社会を考える子どもの育成」問いと知識を明確にした学習過程の在り方」とし、社会事象に

関心をもち、追究・検証しながら、自ら課題解決をしていく力を育てることを目標に研究を推進しています。

子どもの思考の流れを大切に、我がこととして考えていくことができる授業の実現のためのことに力を入れて実践しています。

- ①本教材に関わる子どもの実態
- ②子どもの思考と学習問題をつなぐ単元づくり
- ③課題解決に向け、自ら問い続ける授業づくり

第三会場

出雲市立中部小学校

校長 須田

勉

■学校概要・地域の特徴

本校は、昭和四十四年に近隣の直江小学校と久木小学校が統合して新設され、本年度で開校五十五年を迎えました。学校のある出雲市斐川町は、出雲平野の東にあり、豊かな穀倉地帯が広がっています。学校周辺には、築地松を持つ散居集落があり、田園風景が美しい地域です。校区の南側には、県内でも有数の工業拠点として先端技術産業の集積地が形成され、斐川中央工業団地の整備が進んでいます。

本校は近年、外国につながる児童が増加したことで日本語指導の拠点校となりました。日本の文化はもちろん、外国につながる児童の文化も尊重しながら学習や学校生活が送れるように取り組んでいます。

■研究の概要

子供たちが「自分事」にできる魅力ある教材の開発をテーマに実践研究に取り組んできました。「なぜ」「どうして」「知りたい」という子供の思いを引き出し、単元をとおして思考が広がるように資料や発問の吟味等を大切にしてきました。

具体的な内容としては、以下の三点を柱に授業づくりに取り組んでいます。

- ①自分事のできる社会的事象の教材化
- ②社会認識を深める単元構成の工夫
- ③社会的な態度形成に向かう学びの場の設定

公開授業においては、三点目の社会的な態度形成を目指し、自分の考えを再構築する子供の姿を見ていただくと考えています。

全小社研事務局だより

全国小学校社会科学研究協議会事務局長
東京都港区立筭小学校校長

矢部 洋一



第百十六回理事会について
令和六年六月七日(金)日本出版
クラブで、第百十六回理事会が

令和六年度 全国小学校社会科学研究協議会役員名簿

会 長 石井 正広(東京・新宿区立四谷小学校)
副 会 長 諸角 哲男(東京・世田谷区立代沢小学校)
平澤 淳志(北海道・札幌市立円山小学校)
飯岡竜太郎(岩手・盛岡市立桜城小学校)
高島 聡(神奈川県・横浜市立川和東小学校)
河本 隆明(石川・金沢市立三和小学校)
八木健太郎(名古屋・名古屋市中立高蔵小学校)
廣岡 浩(大阪・大阪市立喜連北小学校)
古谷 修一(広島・広島市立飯室小学校)
深川 隆(香川・観音寺市立一ノ谷小学校)
末永 道弘(長崎・長崎市立西山台小学校)
宮本 雅司(神奈川県・横浜市立大曾根小学校)
風見由起夫(東京・練馬区立大泉第三小学校)
中嶋 太(東京・西東京市立東伏見小学校)
理事 各地域団体組織代表者
事務局次長 矢部 洋一(東京・港区立筭小学校)
吉川 正(東京・中野区立桃花小学校)
鈴木 優介(東京・西東京市立谷戸第二小学校)
酒川 敬史(東京・練馬区立旭丘小学校)
手塚 成隆(東京・杉並区立荻窪小学校)
草刈あずさ(東京・府中市立府中第十小学校)
西谷 秀幸(東京・板橋区立板橋第五小学校)
調査研究部長
会 報 部 長

回群馬大会の案内がありました。
なお、平成二十七年度より休止
していた本大会の開催希望受け
付けについては、島根大会理事
会にて再開の承認を得ること
になりました。

理事会終了後は、文部科学省
教科調査官小倉勝登先生による
教育講演会が開催され、「これか
らの社会科教育の動向」をテーマ
に社会科の資質・能力の向上に
ついてご指導をいただきました。

研究論文の募集

全小社研では、毎年、研究論
文を募集して、その成果を冊子
にまとめ全国に紹介しておりま
す。今年度も文科省教科調査官
小倉勝登先生を中心に論文審査
をお願いし、優れた論文を研究
集録第六十集として三月に刊行
する予定です。

一 研究主題

「学習指導要領の具現化を目指
す社会科指導の工夫」

二 研究実践例

(一)「思考力」「判断力」「表現力」
の育成を目指した研究実践
(二)児童に身近な教材を取り上げ、
「主体的・対話的で深い学び」
を目指した研究実践

(三)一人一人の児童に生きる力と
しての問題解決能力の育成を
目指した研究実践

(四)児童が社会的事象の見方・考
え方を働かせ、課題を追究し
ていく研究実践

(五)社会に見られる課題の解決に
向けて選択・判断する力の育

成を目指した研究実践

(六)体験的な活動を適切に組み入
れ、考えに広まりや深まりを
もたせた研究実践

(七)学んだことを実社会・実生活
等に活用し、社会参画を視野
に入れた研究実践

三 応募要項

(一)論文枚数

A4縦置き 横書き 六枚

(二)締切

令和七年一月十四日(火)

必着(当日消印有効)

(三)応募資格

正会員である団体の長(都道府
県小社研会長等)の推薦、また
は準会員(個人会員)

(四)応募方法

官製はがき又はメールに次の
事項を記入の上、令和六年十
二月二日(月)までに事務局担
当者にお申し込み(応募登録く
ださい)。

a 副主題

b 実践学年

c 実践単元 d 実践者職・氏名

e 勤務校

f 勤務校所在地、郵便番号

g 勤務校電話番号 FAX 番号

h 「団体の長の推薦」又は「個人
会員」の資格の明記

(五)発表

審査結果は二月末までに本人
宛て連絡し、入選・佳作は研
究集録に掲載します。

(六)問い合わせ先・応募先

〒一七六-〇〇〇五

東京都練馬区

旭丘二二二一-一

練馬区立旭丘小学校長

酒川 敬史

会 員 募 集

全小社研では、小学校社会科
教育の発展のため、全国各地の
研究団体(正会員)と個人会員(準
会員)が連携して研究活動を続け
その成果を積み上げてきました。
今年度も個人会員への加入にご
協力ください。

一 個人会員の性格・特典

個人会員は、準会員として会
費を負担することにより、研究
論文への応募資格を得るとも
に、全小社研の研究成果の刊行
物(研究集録・会報・資料)の送
付を受けることができます。

会費 年額 一、五〇〇円

二 会費の納入方法

最寄りの郵便局より、郵便振
替にて会費をご送金ください。
入金が確認でき次第、会員証を
送付します。

三 郵便振替口座番号

〇〇一〇〇一六二八二五五七

全国小学校社会科学研究協議会

四 問い合わせ先

〒一八八-〇〇〇一

東京都西東京市

谷戸町一十七-二十七

西東京市立

谷戸第二小学校長

鈴木 優介

TEL 〇四二-四二二-一五〇五一

FAX 〇四二-四二二-一四〇〇〇